

Title	太平天国関係文献目録(日本文)
Sub Title	Books and articles on Taiping movement written in Japanese
Author	白川, 知多(Shirakawa, Chita)
Publisher	三田史学会
Publication year	1980
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.49, No.4 (1980. 3) ,p.176(454)- 210(488)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	文献目録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19800300-0180

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

太平天国関係文献目録（日本文）

白川知多

太平天国関係文献目録

	No.	No.
I 太平天国		
1 単行本	1	— 10
2 文献目録・年表	11	— 17
3 研究史・研究動向	18	— 42
4 研究論文		
(1) 総論及び性質・評価関係	43	— 78
(2) 思想・宗教	79	— 104
(3) 制度・政策	105	— 114
(4) 対外関係	115	— 122
(5) 人物	123	— 137
(6) 女性関係	138	— 144
(7) その他	145	— 155
5 資料紹介・解説（幕末日本人の太平天国観関係も含む）	156	— 185
6 日本における太平天国資料	186	— 209
7 小説等	210	— 221
8 翻訳文献		
(1) 資料	222	— 236
(2) 論説	237	— 243
(3) 小説等	244	— 247
9 概説書・通史などの太平天国関係記述部分	248	— 296
II 反太平天国勢力		
(1) 曾国藩・湘軍関係	297	— 324
(2) 李鴻章・淮軍関係	325	— 329
(3) その他	330	— 339
III 太平天国前後のその他の反乱		
【文献目録】	340	— 341
(1) 抗英闘争	342	— 350
(2) 抗租・抗糧闘争	351	— 371
(3) 秘密結社の反乱	372	— 386
(4) 捻軍	387	— 394
(5) 華北農民反乱	395	— 405
(6) 回民関係	406	— 434
(7) その他	435	— 438

（四八八）二一〇

〔注記〕

◦ I, II, IIIに重複するようなものは大体Iの中に入れてが、分類上やむをえずIとIIIの両方に入れたものもある。

◦ I-9は中国近代史関係の概説書、通史を中心にして集めた。

太平天国関係の文献目録は増井経夫、市古宙三氏らによって作られたものがすでにくつもあり（本目録 No. 11~14）、この目録も大半がそれらによっている。つけ加えた部分はずかでないが、たまたま機会があつてこうした目録を作つたので、あえて掲載させていただくことにした。 (1979. 10. 15)

I 太平天国

1 単行本

No.

1. 曾根俊虎編 『清国近世乱誌』 日就社 1879
副島種臣校 (『髮賊乱志』の題で『通俗二十一史』巻12所収 早稲田大学出版部 1912)
2. 梨本祐平 『太平天国革命』 中央公論社 1942
3. 外山軍治 『太平天国と上海』 高桐書院 1947
〔書評〕 北村敬直 東洋史研究10-1 1947
4. 佐野学 『清朝社会史』第3部農民暴動第3輯太平天国革命 文求堂 1947
〔書評〕 鈴木中正 中国研究2 1947
(『佐野学著作集』4所収 佐野学著作集刊行会 1958)
5. 増井経夫 『太平天国』(岩波新書70) 1951
〔書評〕 外山軍治 史学雑誌60-12 1951
里井彦七郎 中国研究16 1952
(No. 9 所収 1978)
6. 増井経夫 『アヘン戦争と太平天国』(アテネ文庫) 弘文堂 1956
(No. 9 所収 1978)
7. 法本義弘 『太平天国攷』(発行所・年未記載)
8. 梨本祐平 『太平天国革命の研究』 同成社 1972
<No. 2 の改訂版>
9. 増井経夫 『中国の二つの悲劇——アヘン戦争と太平天国——』 研文出版
<No. 5, 6 などを集めたもの> 1978

【論文集】

10. 小島晋治 『太平天国革命の歴史と思想』 研文出版 1978
 [書評] 小林一美 史学雑誌88-7 1979

2 文献目録・年表

11. 増井経夫 日本における太平天国関係著作目録
 No. 5, 9 所収 1951
12. お茶の水女子大学東洋史3年 太平天国史研究文献目録
 お茶の水史学6 1963
13. 市古宙三 太平天国史研究論文目録(中国文新聞雑誌之部)
 近代中国研究センター彙報4 1964
14. 市古宙三 太平天国関係文献目録
 市古宙三『近代中国の政治と社会』 東京大学出版会 1971
 (同書〔増補版〕1977には、巻末に「〔増補〕太平天国関係
 文献目録」を追補)
15. 梨本祐平 太平天国年表
 No. 2 所収 1942
16. 依田憇家 太平天国関係年表(1843-1868年)
 No. 241 所収 1972
17. 梨本祐平 世界、中国(清朝・太平天国)、日本比較年表
 No. 8 所収 1972

3 研究史・研究動向

18. 田中忠夫 支那に於ける『太平天国』革命の研究
 社会経済史学3-11 1934
19. H. K. 「太平天国運動」に関する若干の資料
 満鉄調査月報16-3 1936
20. 信夫清三郎 太平天国の乱についての一省察
 歴史(白揚社)13 1938
21. 現代中国学会調査部 太平天国百週年の学界展望
 中国研究14 1951
22. 市古宙三 中国における太平天国史の研究
 史学雑誌60-10 1951

- (1951-70年分を増補して、市古宙三『近代中国の政治と社会』所収 東京大学出版会 1971〔増補版〕1977)
23. 大谷孝太郎 太平天国の位置付け——素朴的から古典的へ——
彦根論叢 8 1952
24. 大谷孝太郎 太平天国の位置付け——社会科学的——
彦根論叢10 1952
25. 幼方直吉 西と東の大平天国研究
思想331 1952
26. 小島晋治 中国における太平天国研究の動向
歴史評論105 1959
(No. 10 所収 1978)
27. 河鱈源治 天朝田畝制度をめぐる近年の研究
東洋学報44-1 1961
28. 伊原弘介 中国近代史の研究動向——アヘン戦争・太平天国・辛亥革命研究を
中山義弘 めぐって——
歴史評論184 1965
29. 石田米子 太平天国の歴史的な位置づけに関する諸問題(上)
東洋文化研究所紀要43 1967
30. 早淵昭秀 人民闘争の評価をめぐる——抗英闘争から太平天国まで——
史潮100 1967
31. 吉田穂積 清代農民叛乱研究史の総括と課題——変革主体の形成をめぐる——
東洋史研究32-2 1973
32. 河鱈源治 太平天国研究の問題点——わが国の研究のあとをたどって——
近代中国 1 1977
33. 森正夫 民衆反乱史研究の現状と課題——小林一美の所論によせて——
『講座中国近現代史』1 中国革命の起点 東京大学出版会
1978
34. 並木頼寿 太平天国史学術討論会のひとこま——洪秀全と「西方の真理」——
療原 8 1979
35. 小島晋治 太平天国史学術討論会に参加して
中国研究月報380 1979
36. 並木頼寿 太平天国政権の性質について——「太平天国史学術討論会」の論議
に接して——
中国研究月報380 1979
- 【人物評価論争】
37. 野原四郎 太平天国にかんする中国での論争
歴史学研究163 1953

〈洪仁玕評価についての紹介〉

38. F. Y 生 李秀成論——太平天国をめぐる歴史評価の問題——（中共の学術論争・3）
東亜時論 6-11 1964
39. 今村与志雄 太平天国——李秀成自述の評価といわゆる転向問題について——
『講座現代中国』Ⅱ中国革命 大修館 1969
40. 内田義男 忠王李秀成の評価論争
学習院史学 7 1970
41. 内田義男 忠王李秀成の評価論争補遺——余明俠の李秀成批判について——
学習院大学文学部研究年報19 1973
42. 小島晋治 楊秀清評価をめぐる——1977年——
No. 10 所収 1978

4 研究論文

(1) 総論及び性質・評価関係

43. 田中萃一郎 太平天国の革命的意義（大会講演）
史学雑誌23-7 1912
（『田中萃一郎史学論文集——田中博士十周年忌記念——』所収 三田史学会 1932）
44. 田中忠夫 太平天国革命の新研究
東亜 5-10 1932
45. 佐野袈裟美 農民戦争としての太平天国革命
唯物論研究17 1934
46. 野原四郎 太平天国の乱
『世界歴史大系』9 東洋近世史 2 平凡社 1934
（『歴史科学大系』13 アジアの変革（上）所収 校倉書房 1978）
47. 東亜経済調査局 支那ブルジョア民主主義革命の先駆としての太平天国革命
『支那ソヴェート運動の研究』 東亜経済調査局 1934
（復刊 巖南堂 1972）
48. 鳥山喜一 太平天国乱の本質
『東方文化史叢考』 大阪屋号書店 1935
49. 野原四郎 支那民族運動の黎明期
『アジア問題講座』1 政治・軍事篇(1) 創元社 1939
50. 波多野善大 太平天国
歴史学研究142 1949

51. 波多野善大 太平天国に関する二三の問題について
歴史学研究150 1951
52. 里井彦七郎 波多野氏「太平天国に関する二三の問題について」を読む
歴史学研究153 1951
53. 大島普(小島晋治) 太平天国運動の諸様相——揚子江上流地方を中心に——
歴史評論36 1952
54. 天野元之助 太平天国
東洋史研究13-1・2 1954
55. 小島晋治 中国革命ののろし——太平天国の戦い——
『世界歴史講座』4 三一書房 1954
56. 岡谷元治 中国の近代化と太平天国
経済学論叢 6-5・6 1956
57. 大隅逸郎 太平天国——中国民主革命の序曲——
同志社法学 8-4 1956
58. 衛藤瀋吉 アロウ戦争と太平天国
『世界史大系』XIV東アジアⅢ 誠文堂新光社 1958
(衛藤瀋吉『近代中国政治史研究』所収 東京大学出版会
1968)
59. 小島晋治 太平天国
『世界の歴史』11ゆらぐ中華帝国 筑摩書房 1961
(新訂版 1979)
60. H. S. 中国における太平天国運動評価の問題——特にその指導性の問題に
ついて——
内閣調査月報 7-3 1962
61. 平野義太郎 中国と日本の近代化の比較——その起点としての太平天国と明治維
新——
中国研究所紀要 2 1963
62. 河鱒源治 太平天国と近代化の問題
歴史教育13-12 1965
63. 宮崎市定 太平天国の性質について
史林48-2 1965
(宮崎市定『アジア史論考』下 近世編所収 朝日新聞社
1976)
64. 小島晋治 太平天国と農民(上)——宮崎市定教授の所説に寄せて——
史潮93 1965
(一部 No. 10 所収 1978)
65. 小島晋治 太平天国と農民(中)の(1),(2)
史潮96, 97 1966

- (No. 10 所収 1978)
66. 小島晋治 宮崎市定氏の「太平天国の性質について」について
歴史評論191 1966
- (No. 10 所収 1978)
67. 西川喜久子 太平天国のたたかい
『思想の歴史』11 胎動するアジア 平凡社 1966
68. 西川喜久子 太平天国運動
東洋文化41, 43 1966-67
69. 増井経夫 太平天国
『世界歴史シリーズ』20 中華帝国の崩壊 世界文化社
1969
70. 依田憲家 19世紀 50-70 年代におけるアジアの革命情勢——太平天国と明治維新——
社会科学討究15-3 1970
71. 小島晋治 太平天国——農民の地上天国をめざして——
『日本と世界の歴史』第18巻 19世紀Ⅱアジアの苦悩と抵抗 学習研究社 1971
72. 大塚勝美 太平天国革命と婦人解放——現代中国革命の源流——Ⅰ～Ⅷ (継続中)
北九州大学商経論集 7-2, 3・4, 8-1・2, 3・4, 北九州大学法政論集 創刊号, 2-1, 3, 3-4 1971-76
73. 小島晋治 太平天国革命
『岩波講座世界歴史』21 近代8 1971
(一部を除いて No. 10 所収 1978)
74. 依田憲家 太平天国——その本質と継承——
No. 241 所収 1972
75. 鈴木中正 太平天国
鈴木中正『中国史における革命と宗教』第12章 東京大学出版会 1974
76. 小島晋治 アヘン戦争前後の中国の状況と太平天国運動(No. 236 第一部の解説)
No. 236 所収 1976
(一部を除いて No. 10 所収 1978)
77. 山崎美好 「太平天国の乱」に関する考察——天朝田畝制度・太平天日・奉天討胡の檄に於ける太平天国の側面を探る——
拓殖大学大学院研究年報 6 1977
78. 松野正志 太平天国革命運動と近代化への影響
拓殖大学大学院研究年報 6 1977

(2) 思想・宗教

79. 藤原定 太平天国運動
藤原定『近代支那思想』第5章 中央公論社 1941
(後に『近代中国思想』と書名を改めて再刊 思潮社 1948)
80. 沢崎堅造 太平天国の思想的背景
沢崎堅造『東亜政策と支那宗教問題』第4章 長崎書店 1942
81. 宮川尚志 初期太平天国の宗教性
人文科学1-3 1946
82. 佐伯好郎 太平天国と基督教との関係
佐伯好郎『清朝基督教の研究』第3章 春秋社 1949
83. 市古宙三 太平天国詔書の改正について
東洋学報33-2 1950
(市古宙三『近代中国の政治と社会』所収 東京大学出版会 1971〔増補版〕1977)
84. 市古宙三 太平天国の讚美詩
『和田博士還暦記念東洋史論叢』講談社 1951
(市古宙三『近代中国の政治と社会』所収 東京大学出版会 1971〔増補版〕1977)
85. 宮坂宏 中国に於ける近代的法の形成——太平天国運動と法意識の問題——
早稲田法学会誌6 1956
86. 小島晋治 太平天国の思想
『講座近代アジア思想史』I 中国篇1 弘文堂 1960
87. 吉田寅 梁阿発とその中国文布教書
基督教史学13 1963
88. 山口一郎 太平天国革命と毛沢東思想——とくにその「禁欲主義」について——
研究(神戸大学文学会)37 1965
(山口一郎『現代中国思想史』所収 頸草書房 1969)
89. 吉田寅 「勸世良言」考——十九世紀中国キリスト教布教書の一考察——
キリスト教史学17 1966
90. 深沢秀男 太平天国の宗教についての一考察——キリスト教との関連における——(講演要旨)
キリスト教史学18 1966
91. 三石善吉 前期太平天国の思想
中国文学研究4 1966
92. 富倉光雄 太平天国の宗教思想についての一考察
宗教研究193 1967

93. 小島晋治 農民戦争における宗教——結社宗教——
『中国文化叢書』6宗教 大修館 1967
(No.10 所収 1978)
94. 西川喜久子 太平天国と宗教
『中国文化叢書』6宗教 大修館 1967
95. 富倉光雄 洪秀全における道統思想について(講演要旨)
宗教研究194 1968
96. 池田清 太平天国の宗教思想——洪秀全の基督教思想受容についての一考察——
中国農民戦争史研究2 1968
97. 市古宙三 太平天国における平等(講演要旨)
史艸10 1969
98. 小島晋治 太平天国における宗教——偶像破壊運動の意味を中心に——(講演要旨)
史艸13 1972
99. 佐藤震二 洪秀全初期の思想
哲学年報32 (初稿1960頃) 1973
100. 永井算巳 太平天国の革命理念——季節外れの一考察——
信州大学人文科学論集10 (初稿1950) 1976
101. 永井算巳 太平天国の階級構成原理とその基本性格——太平天国私観——
信州大学人文科学論集11 (初稿1952) 1977
102. 高橋良政 太平天国運動での〈妖〉
早稲田大学大学院文学研究科紀要 別冊3 1977
103. 三石善吉 千年王国運動としての太平天国
筑波法政1 1978
104. 河鱈源治 洪秀全の思想の形成と展開——沈元著 洪秀全和太平天国革命——
近代中国3 1978

(3) 制度・政策

105. 王世英 太平天国に於ける経済及び文化の研究(上)(下)
東亜経済研究27-3, 4 1943
106. 市古宙三 拜上考——太平天国制度管見——
お茶の水女子大学人文科学紀要1 1952
(市古宙三『近代中国の政治と社会』所収 東京大学出版
会 1971 [増補版] 1977)

【郷村統治関係】

107. 河鱈源治 「天朝田畝制度」の成立について

- 東洋学報33-2 1950
108. 河鱒源治 太平天国における郷官設置の実態——蘇浙湖浜地帯の一例によつて——
- 東方学論集1 1954
109. 河鱒源治 太平天国における郷官創置とその背景
- 史学雑誌63-6 1954
110. 河鱒源治 太平天国の関卡について
- 『和田博士古稀記念東洋史論叢』 講談社 1961
111. 河鱒源治 太平天国占領下南潯鎮における湖糸貿易
- 東方学22 1961
112. 伊原弘介 太平天国の郷村統治——江蘇・浙江地方を中心に——
- 史学研究86 1962
113. 河鱒源治 太平天国の官員となった商人たち——盛川稗乗によって——
- 『鈴木俊教授還暦記念東洋史論叢』 鈴木俊教授還暦記念会 1964
114. 針谷三和子 太平天国運動後期，槍船の果たした役割について
- 中国近代史研究会通信（東京都立大学）7 1977
- （4） 対外関係**
115. 野原四郎 太平天国の遣米使節
- 歴史学研究1-5 1934
116. 鈴江言一 太平天国と外国関係
- 満鉄調査月報14-10 1934
117. 秋永肇 太平天国外交史論
- 台北帝国大学文政学部政学科研究年報7（公法篇） 1941
118. 植田捷雄 太平乱と外国(1), (2), (3)
- 国家学会雑誌62-9, 12, 63-1・2・3 1948-49
119. 野原四郎 極東をめぐる国際関係
- 『岩波講座日本歴史』14 近代1 1962
120. 坂野正高 太平天国——内乱と貿易は両立するか——
- 『中国をめぐる国際政治——影像と現実——』 東京大学出版会 1968
- （坂野正高『近代中国外交史研究』所収 岩波書店 1970）
121. 安夢弼 太平天国の対外政策——イギリスとの関係を中心に——
- 大東文化大学経済論集27 1977
122. 林建朗 1853-4年の太平天国と列強
- 東洋学報60-3・4 1979

(5) 人物

【洪秀全関係】

123. 鳥山喜一 洪秀全の性格に関する一考察（大英博物館所蔵太平天国史料を主として）（講演要旨）
史学雑誌43-7 1932
124. 増井経夫 洪秀全
『人物世界史』東洋 毎日新聞社 1951
（増井経夫『中国の歴史と民衆』所収 吉川弘文館 1972）
125. 林茂生 洪秀全の洋貨護送について（講演要旨）
駿台史学4 1954
126. 後藤基巳 洪秀全の「幻想」について（講演要旨）
東京支那学会報 大会臨時号 1954
127. 石崎東国 大塩平八郎——太平天国の建設者大塩格之助——
中央史壇2-5 1921
（中央史壇2-5は『国史上疑問の人物』の書名で単行本化
国史講習会 1924）
128. 史談荘主人 大塩平八郎「南京秘史——長髪賊革命の真相——」
大亜細亜11-4 1943
（『南京秘史——所謂長髪賊の真相——』の書名で単行本化
大亜細亜建設社 1944）

【石達開】

129. 岡崎俊夫 石達開とその日記
中国文学月報11 1936
130. 鈴木正 石達開の思想に就いて
史観19 1939
131. 田中正俊 石達開の死
大安10-12 1964

【洪仁玕】

132. 物江清光 太平天国——洪仁玕についての一考察——
歴史（福大歴史学研究会）12 1960
133. 三石善吉 洪仁玕の思想
東京支那学報13 1967
134. 内田義男 洪仁玕と西方文明
学習院史学5 1968
135. 今村与志雄 太平天国の人々——末路をともにした3人の自供書から——

『日本と世界の歴史』第18巻 19世紀Ⅱアジアの苦悩と抵抗 学習研究社 1971

史

【その他】

学

第
四
十
九
卷第
四
号

136. 市古宙三 朱九濤考
東方学3 1952
(市古宙三『近代中国の政治と社会』所収 東京大学出版会 1971〔増補版〕1977)
137. 土井弘美 陳玉成
史苑39-2 1979

(6) 女性関係

138. 波多野善大 太平天国の女性
学海4-2 1947
139. 波多野善大 続太平天国の女性
学芸33 1947
140. 大塚勝美 太平天国革命と婦人解放——現代中国革命の源流——
法社会学25 1972
141. 大塚勝美 太平天国と婦人解放——現代中国革命の源流——
現代中国47 1972
(『北九州大学開学25周年記念論文集』再録 北九州大学 1972)
142. 小野和子 太平天国と婦女解放
東方学報(京都)43 1972
143. 市古宙三 太平天国女館考
故村松祐次教授追悼論文集『中国の政治と経済』 東洋経
済新報社 1975
144. 三石善吉 太平天国の女たち
『世界の女性史』17中国Ⅱ革命の中の女性たち 評論社
1976

(四
七
七)一
九
九

(7) その他

145. 浅海正三 太平乱南京最後の日
歴史教育12-10 1938
146. 藤原定 清末に於ける人口過剰の諸現象と太平天国運動
満鉄調査月報19-7 1939
147. 波多野善大 太平天国革命と辛亥革命
歴史教育2-12 1954

148. 河鱈源治 上帝会と三合会との関係について（講演要旨）
史学雑誌63-12 1954
149. 外山軍治 太平天国の回想——H. B. モースの歴史小説——
東西学術研究所論叢25 1958
150. 大川富士夫 中国近代史の視点——アヘン戦争から太平天国運動に至る問題——
歴史教育9-12 1961
151. 市古宙三 中国史雑感（中）——黄巾・黄巢と太平天国——
UP 3-5 1974
152. 小島晋治 マルクスの「太平天国」論について
東京大学教養学部人文科学科紀要61歴史と文化XI 1976
（No. 10 所収 1978）
153. 陳舜臣 続・中国近代史ノート(1)～(5) 太平天国(1)～(5)
朝日アジアレビュー28～32 1976-77
（陳舜臣『夜明け前の中国——続中国近代史ノート——』
所収 朝日新聞社 1979）
154. 堀田伊八郎 太平天国北征軍について——その問題点の一考察——
東洋史研究36-1 1977
155. 西川喜久子 広西社会と農民の存在形態——十九世紀前半における——
『講座中国近現代史』1 中国革命の起点 東京大学出版会
1978

5 資料紹介・解説

156. 内藤虎次郎 大英博物館所蔵太平天国史料
史林10-3 1925
157. 神田喜一郎 欧洲訪書記の中から(2)——和蘭ライデン大学所蔵の漢籍——
書誌学8-4 1937
158. 和田清 洪秀全の家譜について（講演要旨）
史学雑誌54-7 1943
159. 山本達郎 米国議会図書館（Library of Congress）所蔵太平天国関係史料
覚書
史学雑誌60-10 1951
160. 増井経夫 太平天国絵図
『和田博士古稀記念東洋史論叢』 講談社 1961
161. 内田道夫 太平天国をめぐる文学
東北大学文学部研究年報12 1962
162. 増井経夫 『太平天国』について（No. 229 の解説）

- No. 229 第1卷所収 1964
 (一部を除き「リンドレーと太平天国」と題して No. 9 所
 収 1978)
163. 佐々木正哉 太平天国東王楊秀清の誥諭一篇
 東洋学報48-3 1965
164. 佐々木正哉 洪大全供出逆匪会匪名单二紙
 東洋学報49-1 1966
- 【李秀成自述関係】**
165. 和田清 李秀成供状について
 『東亜史研究』(東亜問題 終刊号) 1944
166. 小島晋治 『李秀成親供手跡』について
 東京大学教養学部人文科学科紀要66 歴史と文化 XII 1978
 (No. 10 所収 1978)
167. 河鱒源治 李秀成親供についての諸問題
 近代中国 6 1979
- 【日本における太平天国資料・幕末日本人の太平天国観】**
168. 増井経夫 夷匪犯境録と盾鼻随聞録
 日本史学 6 1938
169. 増井経夫 日本に於ける太平天国資料(講演要旨)
 史学雑誌50-7 1939
170. 増井経夫 太平天国史話
 東亜問題 2-1 1940
171. 松本忠雄 鴉片戦争と太平天国の資料補遺
 東亜問題 2-3 1940
 〈No. 170 の補遺〉
172. 長沢規矩也 満清紀事の編刊について
 書誌学14-6 1940
173. 杜氏嘉造 太平天国とわが遣清使節
 (森鹿三) 東洋史研究 7-5 1942
174. 増田涉 太平天国
 興亜 4-10 1943
175. 外山軍治 文久二年上海日記 (No. 206 の解説)
 No. 206 所収 1946
176. 増井経夫 太平天国研究資料について
 中国資料月報 3 1947
 (No. 9 所収 1978)

177. 増井経夫 太平天国時代——日本の資料を通じて——
 新中国17 1947
 (増井経夫『中国の歴史と民衆』所収 吉川弘文館 1972)
178. 市古宙三 幕末日本人の太平天国に関する知識
 『開国百年記念明治文化史論集』 乾元社 1952
 (市古宙三『近代中国の政治と社会』所収 東京大学出版
 会 1971 [増補版] 1977)
179. 野原四郎 太平天国の乱と幕末日本
 中央公論77-2 1962
180. 小島晋治 幕末日本と太平天国——水戸藩のある庄屋の「見聞録」の記事にふ
 れて——
 水戸論叢 3 1966
 (No. 10 所収 1978)
181. 和田博徳 福沢諭吉の「清英交際始末」とアロー戦争・太平天国
 史学40-2・3 1967
182. 小島晋治 太平天国と日本——「明治百年」によせて——
 高校資料(社会) 5-8 1967
 (小島晋治『アジアからみた近代日本』(亜紀・現代史叢
 書9) 所収 亜紀書房 1978)
183. 増田渉 『満清紀事』とその筆者——わが国に伝えられた「太平天国」につ
 いて——
 鳥居久靖先生華甲記念論集『中国の言語と文学』 鳥居久
 靖教授華甲記念会 1972
 (増田渉『西学東漸と中国事情——「雑書」札記——』所
 収 岩波書店 1979)
184. 中村新太郎 太平天国と高杉晋作
 中村新太郎『日本と中国の二千年——人物・文化交流もの
 がたり——』下 東邦出版 1973
 (東邦選書では(中)に収む 1978)
185. 増田渉 日中文化関係史の一面(16)~(22)
 書評(関西大学生協組織部編) 34~40 1975-76
 (増田渉『西学東漸と中国事情——「雑書」札記——』所
 収 岩波書店 1979)

6 日本における太平天国資料

186. 『海外異説』(国立国会図書館蔵写本17冊) 第4冊 嘉永6年 1853

187. 古川将監 清国騒乱話 嘉永6年 1853
佐須伊織 『海防続彙議』卷之7, 勝安芳『開国起原』上 吉川半七
発行 1893
・(『海防続彙議』は『日本海防史料叢書』6 所収 海防史
料刊行会 1932, 『開国起原』上は No.198参照)
188. 和蘭風説書 嘉永6年 1853
『幕末維新外交史料集成』2 修好門所載 1943
189. 石橋集 嘉安紀聞
190. 支那風説
『大日本維新史料』所載
191. 長崎奉行書類
『大日本古文書』幕末外国関係文書, 『大日本維新史料』
所載
192. 『隣域異聞』(木活字版)
193. 『清朝擾乱風説書』(写本)
194. 清国船長崎ニ入テ同国騒動ノ状ヲ白ス 嘉永7年 1854
『嘉永明治年間録』卷3 古書保存書屋 1883
195. 『清商書牘寄集——道光咸豊内地騒乱事实——』安政2年写 1855
196. 長瀬村利七 『長瀬村利七漂流談』 安政2年 1855
(文太)口 長瀬村利七漂流談発行会 1938(2巻本)
述 また「長瀬村人漂流談」の名で3巻本が『日本庶民生活史
奥多昌忠記 料集成』5 漂流に収められている。三一書房 1968
197. 伯耆文太口 栄力丸漂流記談 安政3年 1856
述 『海表叢書』3 更生閣 1928(再刊 平楽寺書店 1934)
堀熙明撰文
198. 唐国騒乱之風聞書 文久元年 1861
勝安芳『開国起原』上 吉川半七発行 1893
(『開国起原』上は『海舟全集』1 改造社 1927, 『明治
百年叢書』原書房 1968, 『勝海舟全集』17 講談社
1973, 『勝海舟全集』2 頸草書房 1979 所収)
199. 松田屋伴吉 唐国渡海日記 文久元年~3年 1861-63
上海研究 1 1942 所収, 及び川上元次郎「開国以後最
初の上海貿易」所引 商業と経済(長崎高等商業学校研究
館年報) 2 1922(同氏『南国史話』所収 平凡社 1926)
200. 高杉晋作 遊清五録 文久2年 1862
『東行先生遺文』民友社 1916, 『高杉晋作全集』下
新人物往来社 1974
201. 中牟田倉之 長崎より上海迄航海日記(文久戊4月29日より5月6日まで) 等日

- 助 記5篇 文久2年 1862
 中村孝也『中牟田倉之助伝』第13,14章上海渡航(その1,
 2)所引 中牟田武信発行 1919
202. 峯潔 清国上海見聞録 文久2年 1862
203. 納富介次郎 上海雜記
 No. 206 所収 1946
204. 日比野輝寛 贅臆録
 No. 206 所収 1946
205. 日比野輝寛 没鼻筆記 文久2年 1862
 No. 206 所収 1946
206. 納富介次郎 『文久二年上海日記』 全国書房 1946
 日比野輝寛 <No. 203~205 を集めたもの>
207. 名倉予何人 海外日録
208. 名倉予何人 滬城筆話
 <No. 199~208 は文久2年(1862)幕府派遣千歳丸搭乗者の見
 聞記>
209. 久坂玄瑞 解腕痴言 文久2年草案 1862
 福本義亮『松下村塾之偉人久坂玄瑞』誠文堂 1934(『久
 坂玄瑞全集』として復刊 マツノ書店 1978), 『久坂玄瑞
 遺文集』下 泰山房 1944

7 小説等

210. 『雲南新話——一名唐土はいやのはなし——』 嘉永7年 1854
211. 『新説明清合戦記』 山豊軒版 嘉永7年 1854
212. 青衛主人 『清明軍談』 青衛塾版 嘉永7年序 1854
213. 磐上軒主人 『外邦太平記』 嘉永7年序 1854
214. (青衛散人) 『韃靼勝敗記』 墨堤舎版 安政2年 1855
215. 青衛散人附
 言 『清賊異聞』 天竺楼版 安政2年 1855
 <No. 214, 215 は No. 212 の続編, 続々編とみられる>
216. 無名散人序 『小刀会話 満清紀事』 金聖閣版
217. 青柳篤恒 支那近世治乱志
 『物語支那史大系』12 早稲田大学出版部 1930
218. 村松梢風 新水滸伝(1)~(145)
 朝日新聞(東京)夕刊 1939年7月12日~12月31日 1939
219. 佐藤春夫 天京地獄図——一名太平天国の崩壊——(上)(中)(下)(続巻)

- 歴史小説1-1, 2, 3, 2-2 1948-49
220. 中野好夫 裏切られた革命——太平天国の人々——(世界史の十二の出来事10)
新潮 50-10 1953
(中野好夫『世界史の十二の出来事』所収 新潮社 1954,
同書は『人間・歴史・運命——世界史の十二の出来事——』
の名で再刊 新人物往来社 1970)
221. 陳舜臣 太平天国(1)~(7) (継続連載中)
小説現代17-6~12 1979

8 翻訳文献

(1) 資料

222. 羅森著 清国咸豊乱記 安政2年序 1855
吉田松陰訳 『松陰先生遺著』2 民友社 1909, 『吉田松陰全集』2
岩波書店 1934 (再刊 大和書房 1974)
〈羅森『満清紀事』の意訳〉
223. ハンバーグ 『洪秀全の幻想』 生活社 1941
著 〈Theodore Hamberg, *The Visions of Hung-Siu-tshuen,*
青木富太郎 *and Origin of the Kwang-si Insurrection, Hong Kong,*
訳 1854. の訳〉
224. 汪士鐸著 『汪悔翁乙丙日記私録』(抄訳) 稲葉誠一発行 1940
稲葉誠一訳
編
225. 汪士鐸著 乙丙日記 (抄訳)
今村与志雄 『中国古典文学全集』32 歴代随筆集 平凡社 1959
訳 〈No. 224, 225 はともに汪士鐸『乙丙日記』の訳〉
226. 李小池(李 圭)著 『思痛記』 宝雲社 1947
松枝茂夫訳 (『中国古典文学全集』32 歴代随筆集 平凡社 1959, 『世
界ノンフィクション全集』39 筑摩書房 1963 に改訂収録)
〈李圭『思痛記』の訳〉
227. 容闈著 『西学東漸記——容闈自伝——』(東洋文庫 136) 平凡社 1969
百瀬弘訳注 〈Yung Wing, *My life in China and America, New*
坂野正高解 York, 1909. の訳〉
説
228. リンドレー 太平党の楊子江日記 (抄訳)
著 No. 252 所収 1914
稲葉君山

- (岩吉)訳
229. リンドレー 著 『太平天国——李秀成の幕下にありて——』 (東洋文庫 11, 25, 32, 56) 平凡社 1964-65
 増井経夫・今村与志雄 訳 <No. 228, 229 は, Lin-le (=Augustus F. Lindley), *Ti-Ping Tien-Kwoh; The History of the Ti-Ping Revolution, including a Narrative of the Author's Personal Adventures*, London, 1866. の訳>
230. 李秀成著 太平天国——忠王李秀成供状——
 大曾根純訳 『世界ノンフィクション全集』7 筑摩書房 1960
231. 李秀成著 李忠王自伝 (抄訳)
 宮崎市定訳 『中国文明選』11政治論集 朝日新聞社 1971
 <No. 230, 231 は『李秀成自述』1864の訳>
232. 曾国藩著 金陵克復摺
 宮崎市定訳 『中国文明選』11政治論集 朝日新聞社 1971
233. 楊秀清・蕭朝貴著 奉天討胡檄
 小野信爾訳 『中国文明選』15革命論集 朝日新聞社 1972

【翻訳資料集】

234. 西順蔵・島田虔次編 『中国古典文学大系』58清末民国初政治評論集 平凡社 1971
 2 太平天国 西川喜久子訳
 <太平天国文献8篇>
235. 横山英編訳 『ドキュメンタリー中国近代史』 亜紀書房 1973
 I 開国と不平等条約体制
 資料2 <抗英闘争文献3篇>
 II 太平天国と洋務政策
 資料6~10 <太平天国文献4篇, 天地会文献, 曾国藩の檄各1篇>
236. 西順蔵編 『原典中国近代思想史』1アヘン戦争から太平天国まで 岩波書店 1976
 序説 アヘン戦争 伊東昭雄訳
 11~13 <抗英闘争文献4篇>
 第1部 農民革命の思想 小島晋治訳
 1~17 <太平天国文献27篇, 曾国藩の檄1篇>
 18~22 <太平天国以外の結社の文献10篇>
 23 <民間伝承4篇>

237. G・E・テ イラー著 太平之乱とその経済的基礎 東亜 6-10 1933
 〈G. E. Taylor, "The Taiping Rebellion", *The Chinese Social and Political Science Review* XVI-4, 1933. の抄訳〉
238. 李一塵著 太平天国革命 田中忠夫訳 『支那近代農民経済史研究』第3章 東亜経済調査局 1935
239. 李一塵著 『太平天国革命』 中国研究所 1949
 中国研究所 訳 〈No. 238, 239 は李一塵『太平天国革命運動史』上海光華書局 1930の訳〉
240. 中国現代史研究委員会編 『太平天国』(東亜問題 別冊2) 生活社 1940
 山本一郎訳 〈中国現代史研究委員会編『中国現代革命運動史』第1講太平天国革命運動 1938の訳。なお、山本訳は『中国現代革命運動史』第1～6講の訳である石川正義訳編『支那民族運動史』生活社 1940の第1講部分を先に独立刊行したもの〉
241. 牟安世著 『太平天国』 新人物往来社 1972
 依田憲家訳 〈牟安世『太平天国』上海人民出版社 1959の訳〉
242. 江虹著 史的唯物論を堅持し、史的観念論に反対しよう——太平天国史研究 依田憲家訳 におけるブルジョア史的観念論を排す—— No. 241 所収 1972
 〈江虹「堅持歴史唯物論、反対歴史唯心論——斥太平天国歴史研究中的資産階級歴史唯心論——」光明日報1971年2月9日の訳〉
243. 范文瀾著 太平天国革命(Ⅰ)(Ⅱ)(継続中) 横松宗訳 八幡大学論集28-2・3, 29-2 1978
 〈范文瀾『中国近代史』上 第3章太平天国革命 北京人民出版社 1962の訳〉
- (四六九)
- (3) 小説等
244. 梅外山人訳 長髪賊(絵図洪秀全)(1)~(18) 同仁 6-7~12, 7-1~12 1932-33
 〈原典不明〉
245. H. B. モー ス著 丁先生物語(1)~(3) (抄訳) 立命館文学87, 88, 89 1952
 外山軍治訳
246. H. B. モー ス著 『太平天国異聞』 創元社 1965
 〈H. B. Morse, *In the Days of the Taipings*, The Essex

外山軍治訳 Institute, Salem, Massachusetts, 1927. No.245 は第1部
8章までの訳, No.246 は全訳)

【戯曲】

247. 欧陽予倩著 『忠王李秀成——太平天国悲劇の英雄——』 南方書店 1957
須田禎一訳 <欧陽予倩『忠王李秀成』 上海文化供应社 1949 (2版) (『欧
陽予倩劇作選』 人民文学出版社 1956 所収) の訳>

9 概説書・通史などの太平天国関係記述部分

248. 若松節・ 『支那歴史綱要』 3 昌栄社 1888
池田尚編 卷之7 長毛賊武昌城ヲ陥ル
長毛賊起ル
長毛賊南京ヲ陥ル
曾国藩長毛賊ヲ平ラグ
249. 熊田子之四 『支那近世史』 博文館 1895
郎 第7章 長髮賊ノ乱
250. 田中萃一郎 『東邦近世史』 (訂正版) 上, 下 丸善 1903, 1905
上 第10章 鴉片戦争の本末并に長毛賊の挙兵 (西紀1834-西
紀1853)
下 第2章 支那長毛賊の平定並に英仏の北清遠征 (西紀1853
-西紀1864)
第6章 捻匪回匪の平定並に中亞に於ける清露の衝突 (西
紀1864-西紀1881)
(後に岩波文庫 2178-2184 a に三分冊で収録, 上記該当部
分は上, 中 1939, 1941)
251. 加藤正雄 『最近清国動乱史』 三浦櫛義発行 1911
第7章 清朝廷と革命乱
252. 稲葉君山 『清朝全史』 下 早稲田大学出版部 1914
(岩吉) 第62節 太平乱——長髮賊大に起る
第63節 曾国藩湘軍を起す
第64節 太平乱中の上海
第65節 太平党平定さる
第66節 曾国藩に対する評論
第67節 捻党平定さる
第75節 回教徒の騒乱
第76節 ヤクブ・ベクの叛乱

253. 稲葉君山 『近世支那十講』 金尾文淵堂 1916
(岩吉) 6 長髮賊
254. 桜井時太郎 『東洋歴史集成』下 隆文館図書 1919
第222章 長髮賊の乱
255. 稲葉君山 『近代支那史』 大阪屋号書店 1920
(岩吉) 第4編第6節 太平天国の革命
第7節 曾国藩湘軍を起す
第8節 太平乱中の上海
第9節 太平党の末路
256. 稲葉君山 『最新支那史講話』近世之部 日本評論社 1921
(岩吉) 18 太平天国の革命
257. 高桑駒吉 『東洋歴史通覧』下 実業之日本社 1923
第41章 鴉片戦争 長髮賊の乱 英吉利仏蘭西の北清侵伐
258. 小林博 『詳説東洋歴史』下 大同館書店 1926
第4巻第8篇第4章 阿片戦役及び長髮賊の乱
259. 矢野仁一 『近代支那史』 弘文堂 1926
第14章 髮賊乱の前景と其の初期
第15章 髮賊乱の性質
第16章 髮賊乱の経過及び平定
第17章 捻匪の乱
第18章 雲南回教徒(パンツェー)の乱
第19章 同治, 光緒時代陝西, 甘肅, 新疆の回教徒の乱
260. 松井等述 『東洋史講座』第4期 自清朝初世至現代 国史講習会 1926
(再刊 雄山閣 1930)
第11章 長髮賊(太平軍)の動乱
261. 和田清監修 『東洋文化史大系』6 清代のアジア 誠文堂新光社 1938
2 概説 太平軍の動乱と英仏軍の侵入 (有高巖)
262. 本山桂川 『近世支那興亡一百年』 実業之日本社 1938
太平天国の乱
263. 藤枝丈夫 『現代支那の根本問題』 叢文閣 1938
第3篇第1章第2節2 太平天国の本質と没落の真因
264. 佐野袈裟美 『支那近代百年史』上 白揚社 1939
第4章 太平天国革命
265. 比屋根安定 『支那基督教史』 生活社 1940
第5編第15章 仁宗(嘉慶), 宣宗(道光)両帝時代の基督教,
太平天国の乱
266. 有高巖 『概観東洋通史』〔増訂版〕 同文書院 1942
第27章 動揺期の清朝

267. 金井之忠 『清末七十年史』 弘文堂 1942
佐々久 第2章 鴉片戦争と太平天国
268. 市村瓚次郎 『東洋史統』4近世篇下 富山房 1950
第6章第1節 太平天国の乱
269. 竹内好 『中国革命の思想——アヘン戦争から新中国まで——』(岩波新書
山口一郎 143) 1953
斎藤秋男 清末時代2 太平天国の思想 (野原四郎)
野原四郎
270. 森鹿三編 『図説世界文化史大系』18中国IV 角川書店 1960
欧米の侵略と中国の抵抗
太平天国 (内藤戊申)
271. 中山治一編 『世界の歴史』13帝国主義の時代 中央公論社 1961
(文庫版H3-13 1975)
アヘン戦争と太平天国 (市古宙三)
272. 鈴木俊編 『世界各国史』9中国史〔新版〕 山川出版社 1964
第5章第3節 太平天国の乱 (市古宙三)
273. 岩村三千夫 『中国現代史』〔改訂版〕(岩波新書529) 1964
野原四郎 I-2 大農民戦争 (野原四郎)
274. 蔵居良造 『近代中国史』(紀伊国屋新書B-20) 1965
第1章3 太平天国革命
275. 池田誠 『中国革命史——太平天国から人民公社へ——』(市民教室16)
儀我壮一郎 法律文化社 1965
松野昭二 第1章 革命いまだ成功せず
276. 田中正俊等 『教養人の東洋史』下 15世紀から現代迄(現代教養文庫548)
社会思想社 1966
I 東アジア
第三の救世主
地上に天国を
ユートピアの行方
分裂前後
太平天国の敗北 (小島晋治)
277. 波多野善大 『東洋の歴史』10 東アジアの開国 人物往来社 1967
太平天国をめぐる革命と反革命
278. 植田捷雄 『東洋外交史』上 東京大学出版会 1969
第1編第2章第10節 太平天国の乱と外国権益
279. 衛藤瀋吉 『大世界史』20 眠れる獅子 文芸春秋 1969
4 太平天国と上海
280. 石橋秀雄 『世界の歴史』11 帝国主義への道 集英社 1969

- 山上正太郎 太平天国の怒り
281. 小竹文夫等 新修『京大東洋史』IV東亜の近代化 創元社 1969
第2章2 アヘン戦争と太平天国の興起
3 アロー戦争と太平天国の鎮定 (宮崎市定)
282. 市古宙三 『世界の歴史』20 中国の近代 河出書房新社 1969
太平天国
(「太平天国概観」と題して市古宙三『近代中国の政治と社会』所収 東京大学出版会 1971〔増補版〕1977)・
283. 貝塚茂樹 『中国の歴史』下(岩波新書744) 1970
第23章2 太平天国
(『貝塚茂樹著作集』8 中国の歴史に改訂収録 中央公論社 1976)
284. 今永清二 『近代中国革命史——目覚めゆく農民——』 弘文堂 1970
第2章 中国近代の序幕
285. 米沢秀夫 『近代中国のあゆみ』(青木新書157) 1972
I アヘン戦争から太平天国へ
286. 大谷敏夫 『中国近代政治経済史入門』 八千代出版 1972
第2章 第二次阿片戦争と太平天国運動
287. 川合貞吉 『匪賊——中国の民乱』 新人物往来社 1973
太平天国の乱
288. 坂野正高 『近代中国政治外交史——ヴェスコ・ダ・ガマから五四運動まで——』 東京大学出版会 1973
第7章 太平天国とアロー戦争
289. 石田米子 『中国の革命——農民のたたかひの歴史——』(東洋人の行動と思想12) 評論社 1974
III-1 太平天国の伝統
290. 増井経夫 『中国の歴史』7 清帝国 講談社 1974
6 太平天国
291. 小野信爾 『中国の歴史』5 人民中国への道(新書東洋史5) 講談社 1977
第1章3 太平天国
292. 神田信夫 『図説中国の歴史』8 清帝国の盛衰 講談社 1977
7 民衆の反抗
293. 市古宙三 『世界の歴史』21 中国の革命 講談社 1978
2 革命の前兆
294. 羽根田市治 『上海の県城志』 龍溪書舎 1978
第1編6 開港前後
295. 小野和子 『中国女性史——太平天国から現代まで——』(平凡社選書61) 1978

第1章 ^{いくさ} 武の装いを愛した女たち

296. 川上忠雄 『近代中国百年史』 高文堂 1979
第1章第3節 太平天国革命

Ⅱ 反太平天国勢力

(1) 曾国藩・湘軍関係

297. 川崎三郎 『東邦之偉人』 文求堂 1903
298. 桜井信義 『曾国藩』 古賀書店 1943
299. 稲葉誠一 『曾国藩』上(東方学紀要 別冊1) 天理大学おやさと研究所
1962
300. 近藤秀樹 『曾国藩』(中国人物叢書12) 人物往来社 1966
301. 大谷孝太郎 『儒将曾国藩——中国指導者の精神構造——』 布井出版 1977
302. 安岡正篤 曾国藩の日記
(原載不明) 1919
(安岡正篤『東洋的志学』所収 黎明書房 1961)
303. 諸橋轍次 曾国藩の言行録
斯文22-6 1940
304. 水野梅暁 太平天国と曾国藩の功業
支那32-3 1941
305. 小島祐馬 曾国藩
青木正児博士還暦記念『中華六十名家言行録』(麗沢叢書
之7) 弘文堂 1948
306. 佐藤震二 曾国藩の学問
東京支那学会報12 1953
307. 佐藤震二 曾国藩の倫理的な性格
アカデミア6 1954
308. 中山久四郎 太平天国と曾国藩の功罪(講演要旨)
史潮54 1954
309. 中山久四郎 太平天国と曾国藩の功罪褒貶
歴史教育2-12 1954
310. 大谷孝太郎 曾国藩論
彦根論叢(人文科学特輯)7 1956
311. 佐藤一郎 曾国藩と俗文学
芸文研究7 1957

312. 河鱈源治 曾国藩——中国近代史研究の手引Ⅷ——
大安 5-2 1959
313. 稲葉誠一 曾国藩
宇野哲人博士米寿記念論集『中国の思想家』下 頸草書房
1963
314. 大谷孝太郎 儒家としての曾国藩
彦根論叢(人文科学特集) 14 1963
315. 大谷孝太郎 将帥としての曾国藩
彦根論叢(人文科学特集) 17 1965
316. 稲葉誠一 曾国藩の東征軍(1)~(8) (継続中)
専修国文 1, 2, 5, 6, 9, 10, 13, 17, 21, 23 1967-78
317. 坂野良吉 湘軍の性格をめぐって
静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇) 21 1970
318. 陳舜臣 中国近代史ノート(2) 皇帝になれなかった男・曾国藩
朝日アジアレビュー 16 1973
(陳舜臣『中国近代史ノート』所収 朝日新聞社 1976)
319. 山崎美好 洋務運動の先駆者『曾国藩』について——彼の経済思想及び政治思想を知るための一考察——
拓殖大学大学院研究年報 5 1976
320. 波多野善大 曾国藩のパーソナリティーについて
愛知学院大学文学部紀要 6 1976
321. 波多野善大 天京攻略をめぐる人間関係——曾国藩を中心として——
東方学 54 1977
322. 波多野善大 曾国藩と沈葆楨の絶交について
愛知学院大学文学部紀要 7 1977
323. 本田济 曾国藩の哲学——日記を中心に——
日本中国学会報 30 1978
324. 中山八郎 鮑超と霆軍——長髮賊の乱の平定まで——
近代中国研究 2 1958
- (2) 李鴻章・淮軍関係
325. 伊笠碩哉 『李鴻章』 嵩山房 1895
326. 和田清 李鴻章とその時代(講演要旨)
史学雑誌 51-8 1940
327. 小野信爾 李鴻章の登場——淮軍の成立をめぐって——
東洋史研究 16-2 1957

328. 小野信爾 淮軍の基本的性格をめぐって——清末農民戦争の一側面——
歴史学研究245 1960
329. 陳舜臣 中国近代史ノート(5) 講和屋一代—李鴻章
朝日アジアレビュー19 1974
(陳舜臣『中国近代史ノート』所収 朝日新聞社 1976)
- (3) その他
330. 赤松紫川 『戈登將軍』(世界歴史譚第26編) 博文館 1901
331. 徳富健次郎 『ゴルドン將軍伝』(日本学生及市基督教青年会同盟叢書) 警醒社 1901
(徳富健次郎『蘆花全集』4 所収 新潮社 1929)
332. 外山軍治 上海道台呉健彰
学海1-7 1944
333. 外山軍治 上海の紳商楊坊
東洋史研究1-4 1945
334. 外山軍治 王韜と長髮賊
学海2-8 1945
335. 外山軍治 太平乱に於ける清朝の外国に対する援助要請
史林31-3・4 1947
336. 伊藤三千枝 太平乱における団練——湖南省を中心として——
史論8 1960
337. 増田渉 王韜について——その輪廓——
人文研究14-7 1963
338. 佐伯富 清代同治朝における郷勇の撤廢問題
朝鮮学報37・38合併号 1966
339. 坂野良吉 中国近代史における反革命勢力の形成について
歴史の理論と教育6

Ⅲ 太平天国前後のその他の反乱

【文献目録】

340. お茶の水女子大学東洋史3年 近代中国農民暴動研究文献目録
お茶の水史学10 1967
341. 山根幸夫編 『中国農民起義文献目録』 東京女子大学東洋史研究室 1976

(1) 抗英闘争

342. 佐々木正哉 『鴉片戦争後の中英抗争』（資料篇稿） 近代中国研究委員会 1964
編 <漢文文書資料集>
343. 野原四郎 支那民族運動の黎明期
『アジア問題講座』1 政治・軍治篇(1) 創元社 1939
344. 鈴木中正 清末攘外運動の起原
史学雑誌62-10 1953
(『朝鮮・中国の民族運動と国際環境』（アジア・アフリカ
国際関係史叢書1）所収 巖南堂 1967)
345. 寺広映雄 広東に於ける抗英運動——その反官・反支配権力的動向について——
大阪学芸大学紀要（人文科学）2 1954
(寺広映雄『中国革命の史的展開』所収 汲古書院 1979)
346. 波多野善大 アヘン戦争における対英強硬論の意味するもの
『講座近代アジア思想史』I 中国篇1 弘文堂 1960
347. 水原敏博 アヘン戦争後の広東の民衆運動
史潮110・111合併号 1972
348. 天野元之助 アヘン戦争後の英清貿易と広東反英運動
追手門学院大学文学部紀要7 1973
349. 夏井春喜 広東抗英闘争——アヘン戦争期における——
『講座中国近現代史』1 中国革命の起点 東京大学出版会
1978
350. 佐々木正哉 潮州紳民の抗英闘争（1860-1869）
駿台史学26 1970

(2) 抗租・抗糧闘争

351. 大島普（小 太平天国運動の諸様相——揚子江上流地方を中心に——
島晋治） 歴史評論36 1952
352. 横山英 太平天国前における農民運動の一形態（講演要旨）
史学雑誌63-12 1954
353. 横山英 中国における農民運動の一形態——太平天国前の「抗糧」運動につ
いて——
広島大学文学部紀要7 1955
354. 横山英 清朝中期における抗糧運動
歴史教育8-11 1960
(No. 353, 354 合わせて、横山英『中国近代化の経済構造』
第4部第2章「十九世紀中葉の抗糧風潮」に改訂収録 亜

- 紀書房 1972)
355. 藤岡次郎 1853年「嘉定農民蜂起」とその歴史的背景
北海道学芸大学紀要(第一部)10-2 1960
356. 鯨井允子 1853年長江下流域の農民起義
お茶の水史学3 1960
357. 小島晋治 太平天国
『中国の歴史』11 ゆらぐ中華帝国 筑摩書房 1961
(新訂版 1979)
358. 佐々木正哉 咸豊二年鄞県の抗糧暴動
近代中国研究5 1963
359. 小島晋治 太平天国と農民(中)の(1),(2)
史潮96,97 1966
(No.10 所収 1978)
360. 小林一美 十九世紀における中国農民闘争の諸段階
『東アジア近代史の研究』お茶の水書房 1967
361. 小林一美 太平天国前夜の農民闘争——揚子江下流デルタ地帯における——
『近代中国農村社会史研究』大安 1967
(復刊 汲古書院 1973にはコメント付加)
362. 小島晋治 農民と革命
『中国文化叢書』8 文化史 大修館 1968
363. 小島晋治 太平天国革命
『岩波講座世界歴史』21 近代8 1971
(一部を除いてNo.10 所収 1978)
364. 小林一美 中国半植民地化の経済過程と民衆の闘い——厘金をめぐって、19世紀後半——
歴史学研究369 1971
365. 小林一美 抗租・抗糧闘争の彼方——下層生活者の想いと政治的・宗教的自立の途——
思想584 1973
366. 秦惟人 洋務運動時期の民衆運動——江浙の抗捐闘争を中心として——
歴史評論282 1973
367. 目黒克彦 清末の反保甲闘争について
集刊東洋学31 1974
368. 秦惟人 洋務運動時期・浙東社会史ノート
中国近代史研究会通信(東京都立大学)1 1976
369. 二宮一郎 抗捐・抗糧闘争——浙江省新昌県の場合——
『講座中国近現代史』2 義和団運動 東京大学出版会 1978

370. 秋山尚功 抗糧闘争——江蘇省丹徒県の場合——
『講座中国近現代史』2 義和団運動 東京大学出版会 1978
371. 小島淑男 抗租闘争——江南デルタ地帯を中心にして——
『講座中国近現代史』2 義和団運動 東京大学出版会 1978
- (3) 秘密結社の反乱
- 【天地会】
372. 佐々木正哉 『清末の秘密結社』(資料篇) 近代中国研究委員会 1967
編 <漢文文書資料集>
373. 藤岡次郎 波山艇匪について
道東史学9 1963
374. 佐々木正哉 咸豊四年広東天地会の叛乱
近代中国研究センター彙報2, (補足) 同3 1963
375. 前田勝太郎 清代の広東における農民闘争の基盤
東洋学報51-4 1969
376. 西川喜久子 広西社会と農民の存在形態——十九世紀前半における——
『講座中国近現代史』1 中国革命の起点 東京大学出版会 1978
377. 藤岡次郎 清朝咸豊期閩南における小刀会の蜂起について——洪卜仁「太平天
国革命時期閩南小刀会的反清起義」に関して——
北海道学芸大学紀要(第一部)9-2 1958
378. 佐々木正哉 咸豊三年厦門小刀会の叛乱
東洋学報45-4 1963
379. 藤岡次郎 上海小刀会研究之序——首領劉麗川——
日本社会史研究5 1959
380. 坂野良吉 上海小刀会の叛乱
歴史学研究353 1969
- 【金銭会】
381. 藤岡次郎 太平天国革命期, 浙江省における金銭会の蜂起
北海道学芸大学紀要(第一部)10-1 1959
382. 望月雍子 金銭会に関する一考察——清末社会に於ける一現象として——
史艸3 1962

【哥老会】

383. 里井彦七郎 十九世紀中国の仇教運動——植民地主義への抵抗——
小野信爾 『世界の歴史』11ゆらぐ中華帝国 筑摩書房 1961
(新訂版 1979)
(里井彦七郎『近代中国における民衆運動とその思想』所収 東京大学出版会 1972)
384. 酒井忠夫 清末の会党と民衆——特に哥老会について——
歴史教育13-12 1965
385. 渡辺惇 清末哥老会の成立——1891年長江流域起事計画の背景——
『近代中国農村社会史研究』 大安 1967
(復刊 汲古書院 1973)

【青蓮教】

386. 浅井紀 道光青蓮教案について
東海史学11 1976

(4) 捻軍

387. 佐野学 捻の乱
佐野学『清朝社会史』第3部農民暴動第2輯海寇・捻・拳
匪 文求堂 1947
(『佐野学著作集』4所収 佐野学著作集刊行会 1958)
388. 小野信爾 捻子と捻軍——清末農民戦争の一側面——
東洋史研究20-1 1961
389. 脇村健子 捻軍に関する一考察——清末民乱の一性格として——
史艸8 1967
390. 三島宗良 「捻軍」史概述——「捻軍故事」を中心に——
中国研究67 1975
391. 清水稔 捻軍の叛乱について
名古屋大学文学部研究論集LXXI 史学24 1977
392. 並木頼寿 清末皖北における捻子について
東洋学報59-3・4 1978
393. 太田秀夫 捻子運動——1850年代の淮北における——
『講座中国近現代史』1 中国革命の起点 東京大学出版会 1978
394. 並木頼寿 捻軍史の史料について
龍溪44 1978

(5) 華北農民反乱

395. 竹内実 創作と調査——農民革命の英雄宋景詩とその黒旗軍——
文学評論2 1953
396. 横山英 咸豊期, 山東の抗糧風潮と民団
歴史教育12-9 1964
(横山英『中国近代化の経済構造』に改訂収録 亜紀書房
1972)
397. 小林一美 義和団民衆の世界——近代史部会里井報告によせて——
歴史学研究364 1970
398. 神戸輝夫 清代後期山東省における「団匪」と農村問題
史林55-4 1972
399. 神戸輝夫 山東省淄川県劉徳培抗糧始末
大分大学教育学部研究紀要(人文社会科学B集)4-4 1974
400. 神戸輝夫 清代後期山東省における「教匪」と「幅匪」
大分大学教育学部研究紀要(人文社会科学B集)4-5 1975
401. 森田明 清代山東の民埝と村落
東方学50 1975
402. 三島宗良 白蓮教・黒旗軍の反乱——1860年代前半華北民衆運動の一形態——
『講座中国近現代史』1 中国革命の起点 東京大学出版会
1978
403. 福田節生 清代微山湖における湖田について——清代土地問題の一資料——
福岡女子短期大学紀要3
404. 福田節生 清代微山湖の湖団について
史学研究111 1971
405. 福田節生 清末の土郷・唐守忠について——湖団問題についての資料——
福岡女子短期大学紀要6 1973
- (6) 回民関係
406. 西田保 『左宗棠と新疆問題』 博文館 1942
407. 中田吉信 『回回民族の諸問題』(アジアを見る眼40) アジア経済研究所
1971
408. 今永清二 『中国回教史序説——その社会史的研究——』 弘文堂 1966
<論文集>
409. 雲南に於ける回教徒
回教事情1-1 1938
410. 野原四郎 雲南回教徒の叛乱

- 回教圈 1-1 1938
411. 中田吉信 清代におけるムスリムの叛乱
歴史教育 2-12 1954
412. 中田吉信 中国ムスリムと宗族組織——族譜を中心として見たる——
東洋学報 38-1 1955
413. 佐口透 中国ムスリム社会の一側面——清実録より観たる——
『内陸アジアの研究——ヘデイン博士記念号——』（ユー
ラシア学会研究報告Ⅲ） ユーラシア学会 1955
414. 寺広映雄 雲南ムスリム叛乱の性質について
大阪学芸大学紀要（人文科学） 5 1956
（寺広映雄『中国革命の史的展開』所収 汲古書院 1979）
415. 今永清二 林則徐の回民政策について
史学研究 69 1958
（No. 408 所収 1966）
416. 今永清二 中国における回民起義の一形態——太平景象前の雲南回民運動につ
いて——
別府大学紀要 8 1958
（No. 408 所収 1966）
417. 中田吉信 同治年間の陝甘の回乱について
近代中国研究 3 1959
418. 今永清二 中国回民共同体に関する一試論——清代における雲南回民社会につ
いて——
歴史教育 8-11 1960
（No. 408 所収 1966）
419. 今永清二 清朝回民政策に関する覚書——賀長齡・李星沅の雲南回民政策につ
いて——
別府大学紀要 10 1960
（No. 408 所収 1966）
420. 今永清二 清代回教史研究に関する一提案——中田吉信「同治年間の陝甘の回
乱について」をめぐって——
史学研究 85 1962
421. 今永清二 太平景象革命の原因に関する一考察
別府大学紀要 11 1962
422. 今永清二 清代中国回民共同体研究ノート
東方学 24 1962
（No. 408 所収 1966）
423. 今永清二 中国回民共同体研究に関する一資料——清末民国時代の包頭におけ
る回民社会の概況——

- 別府大学紀要12 1963
(No. 408 所収 1966)
424. 今永清二 中国回教史研究における一課題——白寿彝「中国穆期林的歴史伝統」
をめぐって——
歴史教育11-12 1963
(No. 408 所収 1966)
425. 今永清二 咸豊・同治年間の雲南回民運動の近代的性格に関する基礎作業(1)
別府大学紀要13 1965
426. 今永清二 中国における回民商業資本
No. 408 所収 1966
427. 神戸輝夫 清代後期の雲南回民運動について
東洋史研究29-2・3 1970
428. 中田吉信 四川回民雑考
『山本博士還暦記念東洋史論叢』 山川出版社 1972
429. 今永清二 咸同年間の雲南回民運動と太平天国の関係——杜汝秀政権の近代的
性格に関する基礎作業(2)——
史学論叢 6 1973
430. 片岡一忠 「清朝回民政策」の再検討——清実録記事を中心に——
歴史研究(大阪教育大学歴史学研究室) 13 1975
431. 今永清二 清末雲南回民運動の起因に関する一考察
広島大学文学部紀要34 1975
432. 今永清二 清末中国における民衆運動の一形態——いわゆる雲南の回民反乱——
史学研究131 1976
433. 神戸輝夫 回民起義——1850~60年代の雲南における——
『講座中国近現代史』1 中国革命の起点 東京大学出版会
1978
434. 今永清二 馬如龍研究序説
広島大学文学部紀要38-1 1978
- (7) その他
435. 佐々木正哉 咸豊八年鄞県漁民の叛乱
駿台史学16 1965
436. 姫田光義 中国近代漁業史の一駒——咸豊八年鄞県の漁民闘争をめぐって——
『近代中国農村社会史研究』 大安 1967
(復刊 汲古書院 1973)
437. 川久保悌郎 満洲馬賊考——咸豊・同治期におけるその活動を中心として——
文経論叢 3-4 史学篇三 1968

438. 川久保悌郎 満洲金匪考——「韓辺外」のこと——
 文経論叢 7-3 史学篇VII 1972

【補遺】

- I-4 -(5)三石善吉 中国の知識人論——知識人の忠誠と脱走——曾国藩と洪秀全との対
 抗（卷外 清朝の支配哲学）
 思想の研究 5 1971
- I-5 佐藤三郎 文久二年に於ける幕府貿易船千歳丸の上海派遣について——近代日
 中交渉史上の一齣として——
 山形大学紀要（人文科学）7-3 1972
- I-6 峯潔 船中日録 文久2年 1862
 名倉予何人 支那聞見録 文久2年 1862
 田中正俊「名倉予何人『（文久二年）支那聞見録』について」に一部所載『山本博士還暦記念東洋史論叢』山川出
 版社 1972
- II-(1) 大谷孝太郎 「儒将」の没落
 一橋論叢 32-4 1954
- II-(3) 鈴木二郎 『ゴルドン将軍』 一粒社 1941